■ コンクリート構造物断面修復用製品

詳細は個別カタログをご参照ください。

U-アシテクトAP（耐硫酸モルタル）

工　法		断面修復工	副資材	
			鉄筋防錆	表面保護工
適応商品		U-アシテクトAP	U-ペーストⅡ	U-エルシーワン RSⅡ/SFⅡ
種別・特性等		断面修復材	亜硝酸リチウム系	シラン系
適合規格		日本下水道事業団	鉄筋防錆材の性能照査項目※1	コンクリート表面被覆材の性能照査項目※1 他
荷姿	粉 体(kg)	25	5	—
	混和液	—	0.3※3	15

※1 東日本・中日本・西日本高速道路株式会社「構造物施工管理要領」の品質規格
※2 水量は気温、材料温度、水温により変動します。事前に試し練りを行い、施工に必要な作業性をご確認願います。
※3 粉体5kgに対し、U-LN40 0.3kgが必要となります。

U-リペアシリーズ

工　法		断面修復工						
適応商品		U-リペアパッチAP	U-リペアパッチEX	U-リペアライト	U-リペアライトEX	U-リペアショット	U-リペアフロー	U-リペアPFフリー
種別・特性等		左官・吹付け	左官・速硬	左官・軽量	左官・軽量・速硬	吹付け	流し込み	左官・吹付け
適合規格		断面修復の性能照査項目※1					—	—
		国土交通省告示1372号不燃材料認定品	—	—	—	—	国土交通省告示1372号	厚生省令第15号
荷姿	粉 体(kg)	20	20	15	15	20	25	20

試験値は、各規格の試験方法に準拠し、第三者試験機関および弊社試験室（温度20℃）にて測定した結果です。
※1 東日本・中日本・西日本高速道路株式会社「構造物施工管理要領」の品質規格
※2 水量及び練上り量は、気温・水温等の施工条件により変動します。

本カタログ記載内容についての注意事項

◆ 本カタログの記載内容は、予告無しに仕様や記載事項を変更する場合がありますので、予めご了承願います。
◆ 本カタログ記載の性能、物性等の諸データ値は、弊社実験による測定値であり、その数値、性能を保証するものではありません。
◆ 製品の性能は、環境条件や使用方法等により本カタログ記載内容と異なることがあります。事前に使用目的に応じた施工テストを行い、製品の適合性と安全性を確認してください。

MUマテックス株式会社

防水材営業部

〒105-0023 東京都港区芝浦１丁目２番３号シーバンスS館10階
Tel: 03-5419-6203　Fax: 03-5419-6268
https://www2.mu-cc.com/ubekenzai/

東京支店 〒105-0023 東京都港区芝浦１丁目２番３号 シーバンスS館10階 Tel: 03-5419-6203
大阪支店 〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-5-10梅田パシフィックビル6階 Tel: 06-4309-5827
名古屋支店 〒460-0008 名古屋市中区栄3-1-1広小路本町ビルディング5階 Tel: 052-265-5840
広島支店 〒730-0031 広島市中区紙屋町2-1-22広島興銀ビル8階 Tel: 082-244-7234
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-2-12メットライフ天神ビル8階 Tel: 092-781-2309
東北支店 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3鹿島広業ビル8階 Tel: 022-262-6235
札幌営業所 〒007-0801 札幌市東区東苗穂一条1-2-44 Tel: 011-784-8183

販売取扱店

2025. 6. 2000 Ⓔ

MUCC

ポリマーセメント系塗膜防水材 アクリル樹脂系

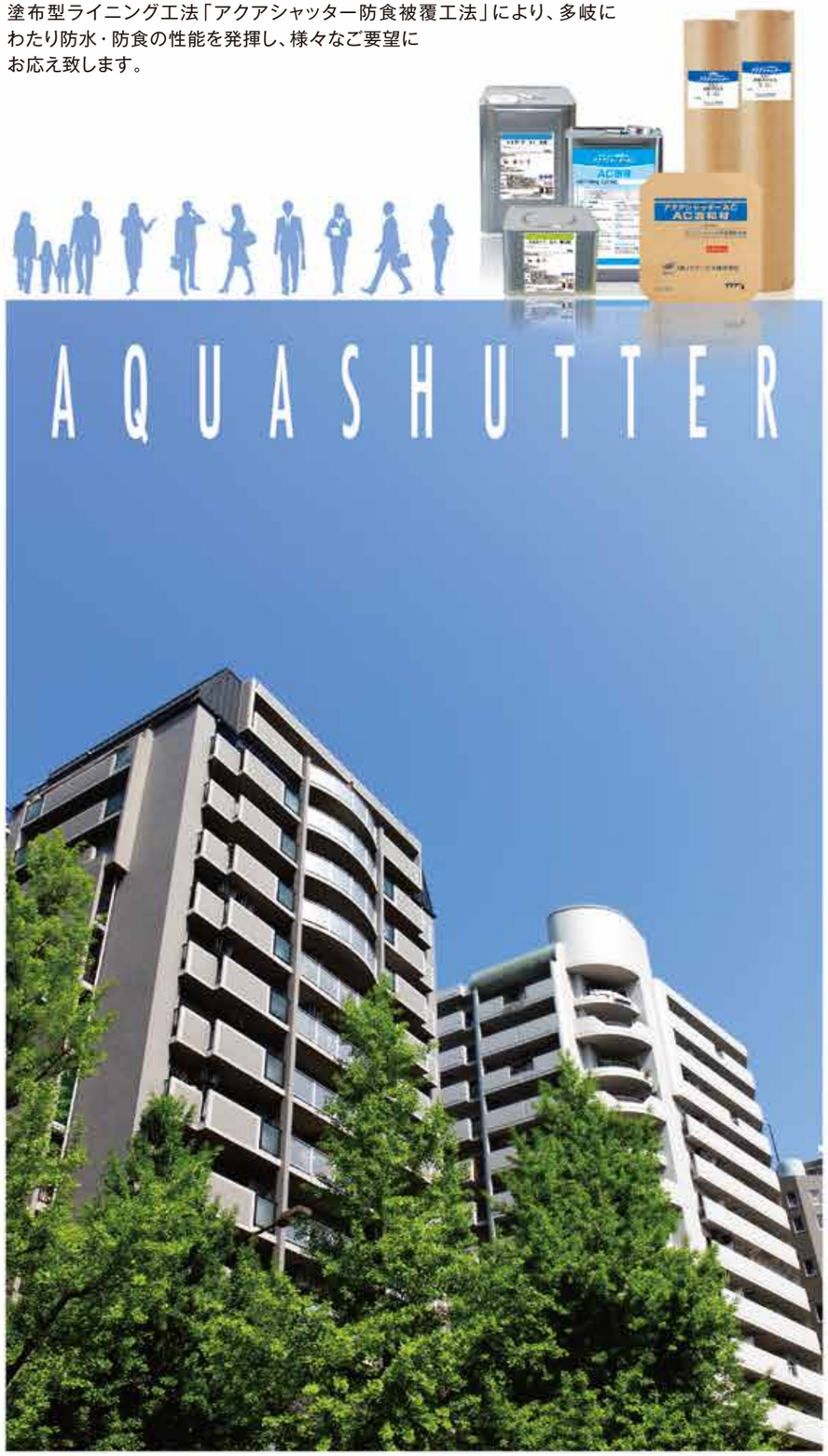
アクアシャッターAC

アクアシャッターACはMUマテックス㈱の登録商標です

アクアシャッターAC 防水工法
アクアシャッターAC 防食被覆工法
アクアシャッターAC 防水・防食複合工法

MUCC MUマテックス株式会社

ポリマーセメント系塗膜防水材「アクアシャッターAC」と、エポキシ樹脂系塗布型ライニング工法「アクアシャッター防食被覆工法」により、多岐にわたり防水・防食の性能を発揮し、様々なご要望にお応え致します。



1 アクアシャッターAC防水工法

アクリル樹脂系
ポリマーセメント系塗膜防水材

アクリル樹脂エマルションと特殊セメント系混和材を混合し塗布する防水材で、環境対応型のポリマーセメント系塗膜防水材です。
従来のポリマーセメント系塗膜防水材の欠点とされていた耐候性と耐疲労性を克服し、長期にわたって優れた防水性能を発揮します。
また、ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を取得しており、室内における様々な防水ニーズに対応できる次世代型の防水材料です。
また日本建築学会・建築工事標準仕様書JASS8防水工事の2022年2月の改訂版に「ポリマーセメント系塗膜防水工事」が新たに記載されC-PF仕様（Aタイプ）とC-PU仕様（Bタイプ）が設定されました。

2 アクアシャッターAC防食被覆工法

無溶剤型のエポキシ樹脂系塗布型ライニング工法により、上水道関連施設や下水道関連施設のコンクリート構造物を様々な腐食因子からの腐食を抑制します。
・上水道関連施設用防食被覆工法　厚生省令　第15号適合
・下水道関連施設用防食被覆工法　日本下水道事業団「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」に適合

上水道関連施設用防食被覆工法として
GW工法、GW-A工法、GW-F工法

下水道用関連施設用防食被覆工法として
GO-A工法、GO-B工法、GO-C工法、GO-D工法、
ガラスクロス入りのGC-1工法、GC-2工法
の各種工法を取揃えております。

3 アクアシャッターAC防水・防食複合工法

ポリマーセメント系塗膜防水材「アクアシャッターAC」と無溶剤型のエポキシ樹脂系塗布型ライニング工法を複合して使用することで防水性能と防食性能の両方を同時に兼ね備えることができる工法となっております。

アクアシャッターAC適用箇所

アクアシャッターACの各種工法、「防水工法」・「防食被覆工法」・「防水・防食複合工法」により、
様々な場所への適用が可能になります。

		工法番号	地上・屋外						屋内			地下				水槽類									
			屋上・ルーフバルコニー	ひさし	開放廊下・外階段	ベランダ・バルコニー	屋上庭園	サッシまわり	浴室・厨房	トイレ・機械室	ピット	地下外壁 外部側	地下外壁 内部側	ドライエリア	外構	プール・人工池	消防用水槽	受水槽	雨水貯排水槽	冷却塔補給水槽	中水槽・雑用水槽	雑排水槽	厨房排水槽	汚水槽	上水道施設用
アクアシャッターAC	ACN	ACN-1P		○	○	○		○		○	○														
		ACN-3P		○		○																			
		ACN-4P		○		○																			
	ACB	ACB-1P	○	○	○	○		△	△	○	○														
		ACB-3P	○	○		○																			
		ACB-4P	○	○		○																			
	ACR	ACR-1P	○	◎	◎	◎	○	△	◎	◎	○			◎											
		ACR-3P	○	◎		◎	○							◎											
		ACR-4P	○	◎		◎	○							◎											
	ACG	ACG-1P					◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	◎	○						
		ACG-2P					◎		◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	△	◎	◎	○	○	△				
		ACG-4P									◎		◎	○			◎	◎	◎	○	○				
アクアシャッターAC 防食被覆工法	上水仕様	GW																							○
		GW-A																							○
		GW-F																							○
	下水仕様	GO-A																				※	※	※	
		GO-B																				※	※	※	
		GO-C																				※	※	※	
		GO-D																				※	※	※	
		GC-1																				※	※	※	
		GD-2																				※	※	※	
アクアシャッターAC 防水・防食複合工法	上水仕様	ACGW																◎							○
		ACGW-A																◎							○
		ACGW-F																◎							○
	下水仕様	ACGO-A																				◎	※	※	
		ACGO-B																				◎	※	※	
		ACGO-C																				◎	※	※	
		ACGO-D																				◎	※	※	
		ACGC-1																				◎	※	※	
		ACGD-2																				◎	※	※	

◎→ JASS8 適用部位　○→ 適用可　△→ 一般的ではないが適用可または過剰品質となるもの
※→ 腐食環境により工法選択が必要　→ ポリマーセメントモルタル仕上げ　→ 保護緩衝材仕上げ

アクアシャッターAC防水工法一覧

■ 保護塗料の必要なし
耐候・耐久性の高い塗膜により、保護塗料(トップコート)なしでの露出使用可能です。塗膜はセメント色のため意匠性にも優れます。

■ タック低減【ACN、ACB、ACR工法】
塗膜硬化後、アクリル樹脂特有のタック(ベタツキ)が少なくなりました。

■ 地下の多湿条件下でも硬化【ACG工法】
セメントの水和反応により硬化造膜するため、湿度の高い水槽内においても短時間で硬化します。

■ 高い接着力
下地との高い接着力を有し、施工後の剥離の発生を防ぎます。

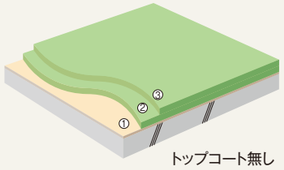
■ 湿潤下地でも施工可能
水系材料であるため地下水槽等の湿潤下地でも施工可能です。
若齢コンクリートや降雨後の施工が可能です。
（※浮き水がある場合は材料が流れてしまうため施工できません。
※屋外での施工の場合、フクレ発生の可能性があるため下地は十分に乾燥させてから施工してください。）

■ 下地クラック追従性能
柔軟な塗膜は高い伸びを有します。

■ F☆☆☆☆製品
取得製品：AC原液·AC混和材·ASプライマー·ASトップ·ASコート
ACG原液·ACG混和材·ASプロテクター
溶剤を含まない水系材料であり火気も使用しません。
ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆製品です。

PA・1仕様　ACN

ACN-1P工法



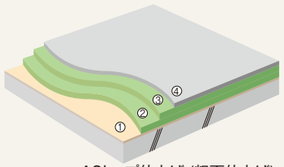
トップコート無し

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18)	0.9	〃
③ AC材	0.8	〃

防水層平均厚み 0.8mm

1) 急勾配屋根をACN-1P工法にてタイル仕上げとする場合は、ACN-1P施工後ラス併用モルタル仕上げとしてください。

ACN-3P工法

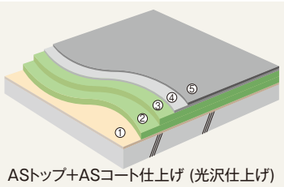


ASトップ仕上げ (粗面仕上げ)

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18)	0.9	〃
③ AC材	0.8	〃
④ ASトップ	0.5	〃

防水層平均厚み 0.8mm

ACN-4P工法



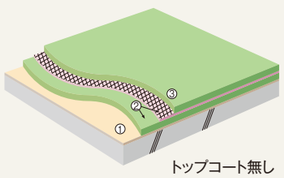
ASトップ+ASコート仕上げ (光沢仕上げ)

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18)	0.9	〃
③ AC材	0.8	〃
④ ASトップ	0.25	〃
⑤ ASコート	0.15	〃

防水層平均厚み 0.8mm

PA・2仕様　ACB

ACB-1P工法

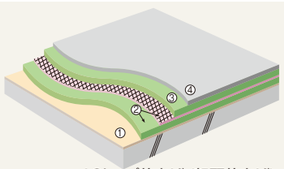


トップコート無し

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18) + ASメッシュ／ASクロス	1.3	〃
③ AC材	1.0	〃

防水層平均厚み 1.1mm　（別途でポリマーセメントモルタル仕上げにする事も可）

ACB-3P工法

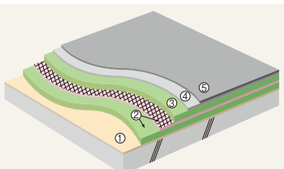


ASトップ仕上げ (粗面仕上げ)

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18) + ASメッシュ／ASクロス	1.3	〃
③ AC材	1.0	〃
④ ASトップ	0.5	〃

防水層平均厚み 1.1mm

ACB-4P工法



ASトップ+ASコート仕上げ (光沢仕上げ)

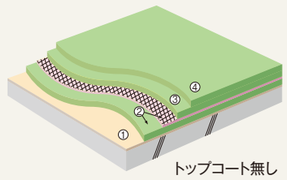
材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18) + ASメッシュ／ASクロス	1.3	〃
③ AC材	1.0	〃
④ ASトップ	0.25	〃
⑤ ASコート	0.15	〃

防水層平均厚み 1.1mm

PA-1仕様、PA-2仕様、PA-3仕様、PB-1仕様は日本建築学会「ポリマーセメント塗膜防水工事施工指針（案）·同解説」に準拠

C・PF仕様　PA・3仕様　ACR

ACR-1P工法

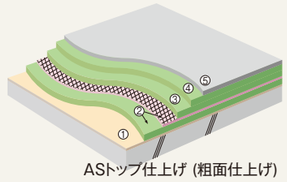


トップコート無し

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18) + ASメッシュ／ASクロス	1.3	〃
③ AC材	1.0	〃
④ AC材	1.0	〃

防水層平均厚み 1.6mm　（別途でポリマーセメントモルタル仕上げにする事も可）

ACR-3P工法

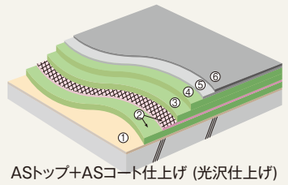


ASトップ仕上げ (粗面仕上げ)

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18) + ASメッシュ／ASクロス	1.3	〃
③ AC材	1.0	〃
④ AC材	1.0	〃
⑤ ASトップ	0.5	〃

防水層平均厚み 1.6mm

ACR-4P工法



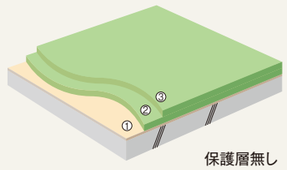
ASトップ+ASコート仕上げ (光沢仕上げ)

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② AC材 (AC原液：AC混和材 18 ： 18) + ASメッシュ／ASクロス	1.3	〃
③ AC材	1.0	〃
④ AC材	1.0	〃
⑤ ASトップ	0.25	〃
⑥ ASコート	0.15	〃

防水層平均厚み 1.6mm

C・PU仕様　PB・1仕様　ACG

ACG-1P工法



保護層無し

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② ACG材 (ACG原液：ACG混和材 18 ： 22)	1.2	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	〃

防水層平均厚み 1.1mm

ACG-1P工法防水層に埋め戻し等の衝撃が加わる場合はモルタル、プロテクター等の保護材を設置してください。

ACG-2P工法

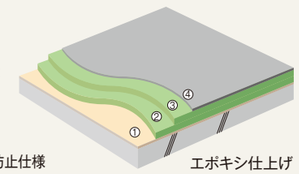
ASプロテクター仕上げ

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	ローラー、刷毛等
② ACG材 (ACG原液：ACG混和材 18 ： 22)	1.2	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	〃
④ ASプロテクター (ASプロテクター：ACG原液：水 15 ： 0.75 ： 2~3)	1.9	〃

防水層平均厚み 1.1mm

ASプロテクターは、適当な軟度となるように水の添加量を調整してください。

ACG-4P工法



アルカリ成分析出防止仕様　エポキシ仕上げ

材料名 (配合)	使用量(kg/㎡)		施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18：ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18：ACG混和材22	〃
④ ASガードG3 しごき用	0.3	4：1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等

防水層平均厚み 1.1mm　上下水向け仕様には適合しません

C-PF仕様、C-PU仕様は日本建築学会　建築工事標準仕様書JASS8防水工事「ポリマーセメント塗膜防水工事」に準拠

・用途や目的に応じてトップコート・保護材の有無および種類をお選びください。
・AC材は、平場部のみスラリー重量に対して3%まで水添加できます。(AC材使用量は水添加なしの場合です) AC原液 ： AC混和材 ： 水 ＝ 18 ： 18 ： 1
・下地の吸水が激しい場合は、ASプライマーは2回塗布してください。
・仕上げ塗料を遮熱性のある高反射仕上げにする場合は、ACN-3P、ACB-3P、ACR-3P工法のASトップをRA高反射コートに変えて0.3kg/㎡塗布してください。

■アクアシャッターACの品質 (各数値は代表値につき保証値ではありません。)

項　目			AC材 (Aタイプ)【比較的動きの大きい下地に適用】		ACG材 (Bタイプ)【比較的動きの少ない下地に適用】
ポリマー混和液　固形分(%)			AC原液：54		ACG原液：54
ポリマー混和液／既調合粉体　混合比			AC原液／AC混和材 18／18		ACG原液／ACG混和材 18／22
工法			ACN工法	補強布使用(ASクロス) ACB工法・※ACR工法	※ACG工法
全固形分(%)			77(±3)		79(±3)
硬化塗膜比重			1.56(±0.1)		1.6(±0.1)
引張強さ (N/mm²)			1.4　(0.6以上)	——	2.4　(1.0以上)
破断時の伸び率 (%)			145　(100以上)	——	88　(30以上)
ゼロスパンテンション伸び量 (mm)	標準		4.4　(2.0以上)	7.3　(3.0以上)	3.0　(1.0以上)
	劣化処理後	加熱処理	3.1　(1.5以上)	5.1　(2.0以上)	——
		アルカリ処理	4.1　(1.5以上)	6.1　(2.0以上)	2.4　(1.0以上)
付着強さ (N/mm²)	標準		1.2　(0.5以上)	1.2　(0.5以上)	1.3　(0.7以上)
	湿潤下地		1.0　(0.5以上)	——	1.3　(0.7以上)
	劣化処理後	加熱処理	1.9　(0.5以上)	——	——
		アルカリ処理	1.2　(0.5以上)	——	1.3　(0.7以上)
		浸水処理	1.2　(0.5以上)	——	1.3　(0.7以上)
透水性 (g)			0.1 漏水なし (透水量0.5g以下かつ漏水が無いこと)	——	0.1 漏水なし (透水量0.5g以下かつ漏水が無いこと)

試験方法:日本建築学会ポリマーセメント系塗膜防水工事施工指針(案)・同解説準拠
(　　)内は、ポリマーセメント系塗膜防水工事施工指針(案)・「ポリマーセメント系塗膜防水材の品質」基準値
※ACR工法(C-PF)、ACG工法(C-PU)はJASS8の品質規格に適合
※「アクアシャッターAC」の耐熱温度は40℃までとなります。
※水流のある水槽で使用する場合は、注意が必要です。

■一般硬化特性 製品の可使時間および塗り重ね乾燥時間(ACN工法、ACB工法、ACR工法)

製　品　名	可使時間			塗り重ね乾燥時間		
	10℃	20℃	30℃	10℃	20℃	30℃
プライマー	——	——	——	2.5時間	2時間	1時間
AC材下塗り	2時間	1.5時間	1時間	5時間	3時間	2時間
AC材下塗り + ASメッシュ/ASクロス + AC材中塗り	2時間	1.5時間	1時間	8時間	5時間	3時間
AC材中塗り	2時間	1.5時間	1時間	6時間	4時間	3時間
ASトップ	2時間	1.5時間	1時間	3時間	1.5時間	1時間
ASコート	2時間	1.5時間	1時間	2時間	1.5時間	1時間

※可使時間・乾燥時間については標準状態での目安時間につき、施工現場の気温、湿度、風の有無、下地状況等により時間は前後します。

■湿潤硬化特性 (ACG工法)

養生条件	塗り重ね乾燥時間
気温20℃・湿度50%	3.0時間
気温20℃・湿度90%	7.5時間
気温10℃・湿度90%	10.5時間

■施 工 例 (ACN-1P工法)

下地の清掃
接着を妨げるほこりやゴミを除去します。
又、下地の凹凸は削り取るか、樹脂モルタルで平滑になるよう処理します。

プライマーの塗布

プライマーの塗布
ASプライマー0.1～0.2kg/m²を、ローラー刷毛等にて均一に塗布します。
(下地の吸水が激しい場合、2回塗布します。)

防水材(AC材)の混練
AC原液を撹拌容器にあけ、AC混和材を少量ずつ加えながら、高速撹拌機にて約3分間混練します。
AC原液とAC混和材の混合比は1:1です。

平場部のみスラリー重量に対して3%まで水添加できます。
AC原液 ： AC混和材 ： 水 ＝ 18 ：18 ： 0.1～1.0

防水材(AC材)の混練

AC材の塗布
プライマーが乾いて、タックがあることを確認します。
1層目のAC材(0.9kg/㎡)を金鏝やローラー刷毛等を用いて均一に塗布します。AC材が硬化造膜したら、2層目(0.8kg/㎡)を1層目と同様に塗布します。

AC材の塗布

養　生
十分に硬化するまで養生します。養生不足による防水層の凹みや接着不良にご注意ください。

■標準施工面積

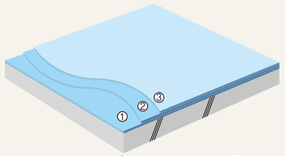
製　品　名	容　量	用　途	適用工法	1缶(袋、本)当りの施工面積
ASプライマー	18kg/缶	プライマー	全工法(ACV工法を除く)	90～180㎡
AC原液	18kg/缶	防水材(AC材)	ACN-1P, 3P, 4P工法	21㎡
			ACB-1P, 3P, 4P工法	15㎡
			ACR-1P, 3P, 4P工法	10㎡
AC混和材	18kg/袋	防水材(AC材)	ACN-1P, 3P, 4P工法	21㎡
			ACB-1P, 3P, 4P工法	15㎡
			ACR-1P, 3P, 4P工法	10㎡
ACG原液	18kg/缶	防水材(ACG材)	ACG-1P, 2P, 4P工法	16㎡
ACG混和材	22kg/袋	防水材(ACG材)	ACG-1P, 2P, 4P工法	16㎡
ASトップ	20kg/缶	耐候塗料	ACN, ACB, ACR-4P工法	80㎡
			ACN, ACB, ACR-3P工法	40㎡
ASコート	16kg/缶	耐候塗料	ACN, ACB, ACR-4P工法	106㎡
RA高反射コート	15kg/缶	耐候塗料	ACN-3P、ACB-3P ACR-3P工法	50㎡
ASプロテクター	15kg/袋	保護材	ACG-2P工法	9.8㎡
ASメッシュ	51㎡/本	補強布 (ポリエステル)	ACB-1P, 3P, 4P工法 ACR-1P, 3P, 4P工法	45㎡
ASクロス	105㎡/本	補強布 (ナイロン・ポリエステル)	ACB-1P, 3P, 4P工法 ACR-1P, 3P, 4P工法	90㎡
ASガードG3しごき用	主剤12kg/缶 硬化剤3kg/缶	アルカリ析出防止工法	ACG-4P工法	50㎡

アクアシャッターAC防食被覆工法一覧

作業環境に配慮した無溶剤型のエポキシ樹脂を使用した防食ライニング工法で、厚生省令 第15号に適合した上水道施設用の防食工法や日本下水道事業団 下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル エポキシ樹脂系塗布型ライニング工法の各種仕様に準拠した防食工法を取り揃えております。
また、新たに有機酸･無機酸対応の防食工法を設定したことにより、ビルピットなど多岐に渡り防食性能を発揮します。

上水向け仕様

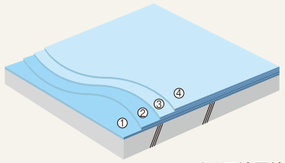
GW工法



材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	金ゴテ等
② ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
③ ASガードGW上塗り (注)状況により2回塗り	0.4	4 : 1(主剤20: 硬化剤5)	ローラー等

ノンクロス、ノンプライマー仕様　厚生省令 第15号適合 JWWA K143適合　硬化後厚み 0.5mm以上

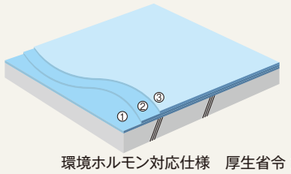
GW-A工法



① ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	金ゴテ等
② ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
③ ASガードコート中塗り	0.2	5 : 1(主剤20: 硬化剤4)	ローラー等
④ ASガードコート上塗り	0.2	5 : 1(主剤20: 硬化剤4)	〃

GW工法屋外露出仕様　厚生省令 第15号適合　硬化後厚み 0.3mm以上

GW-F工法



① ASガードGF	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	金ゴテ等
② ASガードGF	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
③ ASガードGF上塗り	0.4	4 : 1(主剤20: 硬化剤5)	ローラー等

環境ホルモン対応仕様　厚生省令 第15号適合 JWWA K143適合　硬化後厚み 0.5mm以上

【施工完了後の硬化養生期間】

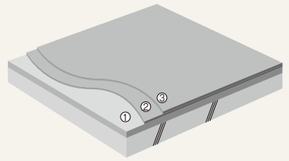
●上水向け仕様、下水向け仕様共通

温　度	5℃	10℃	20℃	30℃
硬化養生	21日以上	14日以上	7日以上	5日以上

各工法による工程毎の塗り重ね養生期間は、施工要領書で確認してください。

下水向け仕様

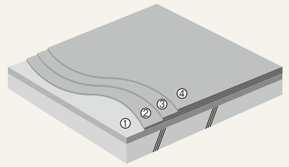
GO-A工法



材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASガードE (素地調整Ⅰ種)	1.0	3 : 1(主剤15 : 硬化剤5)	金ゴテ等
② ASガードP	0.15	1 : 1(主剤 4 : 硬化剤4)	ローラー等
③ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12 : 硬化剤3)	金ゴテ等

有機酸･無機酸対応　日本下水道事業団 A種適合　硬化後厚み 0.2mm以上

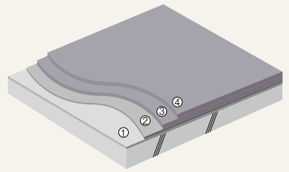
GO-B工法



① ASガードE (素地調整Ⅰ種)	1.0	3 : 1(主剤15 : 硬化剤5)	金ゴテ等
② ASガードP	0.15	1 : 1(主剤 4 : 硬化剤4)	ローラー等
③ ASガードG3 しごき用	0.2	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	金ゴテ等
④ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	〃

有機酸･無機酸対応　日本下水道事業団 B種適合　硬化後厚み 0.35mm以上

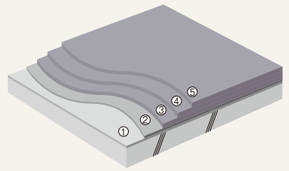
GO-C工法



① ASガードE (素地調整Ⅰ種)	1.0	3 : 1(主剤15: 硬化剤5)	金ゴテ等
② ASガードP	0.15	1 : 1(主剤4: 硬化剤4)	ローラー等
③ ASガードG3	0.8	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等
④ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

有機酸･無機酸対応ノンクロス仕様　日本下水道事業団 C種適合　硬化後厚み 0.7mm以上

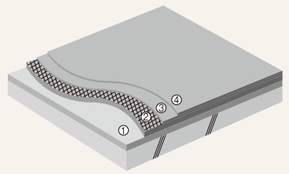
GO-D工法



① ASガードE (素地調整Ⅰ種)	1.0	3 : 1(主剤15: 硬化剤5)	金ゴテ等
② ASガードP	0.15	1 : 1(主剤4: 硬化剤4)	ローラー等
③ ASガードG3	0.8	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等
④ ASガードG3	0.8	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃
⑤ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

有機酸･無機酸対応ノンクロス仕様　日本下水道事業団 D種適合　硬化後厚み 1.3mm以上

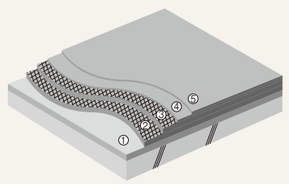
GC-1工法



① ASガードG1(素地調整Ⅱ種)	0.8	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	金ゴテ等
② ASガードG2＋ガラスクロスEPF21A	0.7	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	ローラー等
③ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	〃
④ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	〃

ガラスクロス仕様　日本下水道事業団 C種適合　硬化後厚み 0.7mm以上

GD-1工法



① ASガードG1(素地調整Ⅱ種)	0.8	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	金ゴテ等
② ASガードG2＋ガラスクロスEPF21A	0.7	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	ローラー等
③ ASガードG2＋ガラスクロスEPF21A	0.7	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	〃
④ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	〃
⑤ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12:硬化剤3)	〃

ガラスクロス仕様　日本下水道事業団 D種適合　硬化後厚み 1.3mm以上

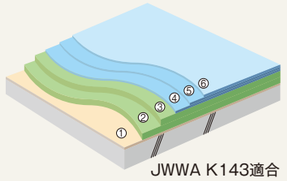
同じ水槽内で、GO工法とGC-1またはGD-1工法を施工することは避けてください。(塗り重ね禁止)

アクアシャッターAC防水・防食複合工法一覧

高い防水性と下地亀裂追従性を有するアクアシャッターACと高い防食性能を有するエポキシライニング防食工法を複合した工法です。 水性材料の防水材と、有機溶剤を含まない無溶剤型の防食材との組合せにより、作業環境に配慮した防水・防食複合工法です。防水工法は、日本建築学会 JASS 8 防水工事C-PUに準拠します。
防食工法は、厚生省令 第15号に適合した上水道施設用の防食工法や日本下水道事業団 下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル エポキシ樹脂系塗布型ライニング工法の各種仕様に準拠します。

上水道施設用

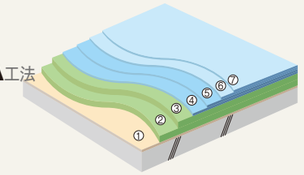
ACGW工法



JWWA K143適合

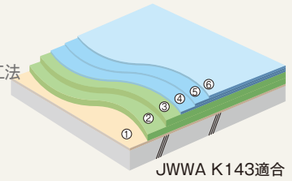
材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑤ ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑥ ASガードGW上塗り	0.4	4 : 1(主剤20: 硬化剤5)	ローラー等
(注) 状況により2回塗り			

ACGW-A工法



材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑤ ASガードGW	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑥ ASガードコート中塗り	0.2	5 : 1(主剤20: 硬化剤4)	ローラー等
⑦ ASガードコート上塗り	0.2	5 : 1(主剤20: 硬化剤4)	〃

ACGW-F工法

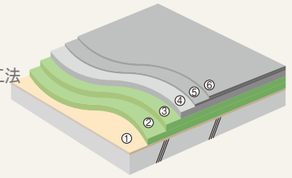


JWWA K143適合

材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードGF	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑤ ASガードGF	0.4	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑥ ASガードGF上塗り	0.4	4 : 1(主剤20: 硬化剤5)	ローラー等

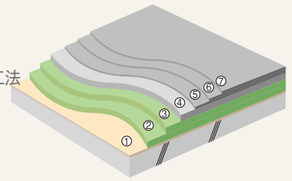
下水道施設用

ACGO-A工法



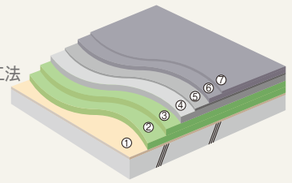
材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードE	1.0	2 : 1(主剤15: 硬化剤5)	〃
⑤ ASガードP	0.15	1 : 1(主剤 4 : 硬化剤4)	ローラー等
⑥ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等

ACGO-B工法



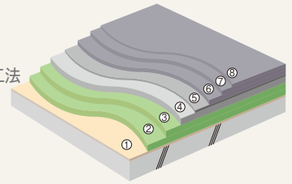
材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードE	1.0	2 : 1(主剤15: 硬化剤5)	〃
⑤ ASガードP	0.15	1 : 1(主剤 4 : 硬化剤4)	ローラー等
⑥ ASガードG3 しごき用	0.2	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等
⑦ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

ACGO-C工法



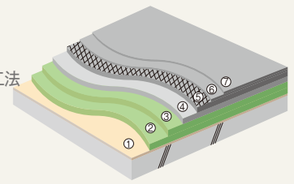
材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードE	1.0	3 : 1(主剤15: 硬化剤5)	〃
⑤ ASガードP	0.15	1 : 1(主剤4: 硬化剤4)	ローラー等
⑥ ASガードG3	0.8	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等
⑦ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

ACGO-D工法



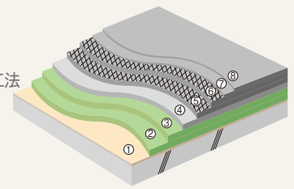
材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードE	1.0	3 : 1(主剤15: 硬化剤5)	〃
⑤ ASガードP	0.15	1 : 1(主剤4: 硬化剤4)	ローラー等
⑥ ASガードG3	0.8	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	金ゴテ等
⑦ ASガードG3	0.8	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃
⑧ ASガードG3 しごき用	0.4	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

ACGC-1工法



材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードG1	0.8	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑤ ASガードG2 + ガラスクロスEPF21A	0.7	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	ローラー等
⑥ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃
⑦ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

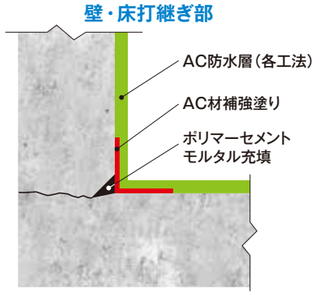
ACGD-1工法



材料名	使用量(kg/㎡)	配　合	施工方法
① ASプライマー	0.1~0.2	—	ローラー、刷毛等
② ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	金ゴテ等
③ ACG材	1.2	ACG原液18 : ACG混和材22	〃
④ ASガードG1	0.8	2 : 1(主剤20: 硬化剤10)	〃
⑤ ASガードG2 + ガラスクロスEPF21A	0.7	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	ローラー等
⑥ ASガードG2 + ガラスクロスEPF21A	0.7	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃
⑦ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃
⑧ ASガードG2	0.2	4 : 1(主剤12: 硬化剤3)	〃

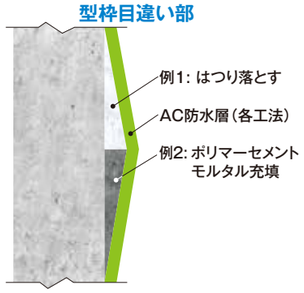
■ 下地処理及び特殊納まり標準施工図

壁・床打継ぎ部



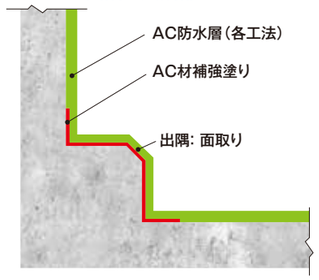
樹脂混入モルタルはセメント・砂比1：2をAC原液の5倍液で混練。
アクアシャッターAC材はAC原液:AC混和材 =18：18に混練。

型枠目違い部

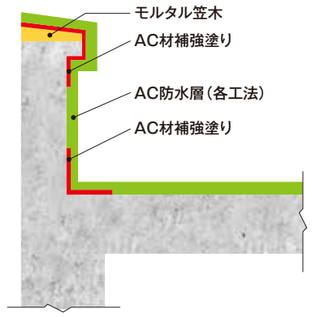


凸部の高さが5mm未満は例1（はつり）
5mm以上は例2（ポリマーセメントモルタル充填）
によって下地補修を行う。

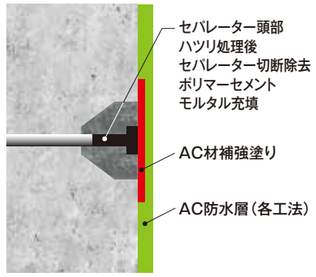
出隅・入隅部



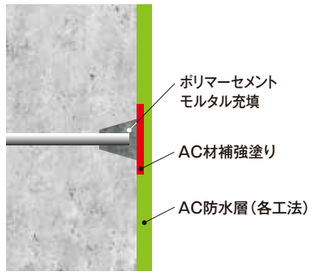
パラペット・笠木廻り部



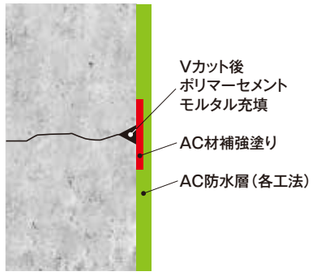
セパレーター部



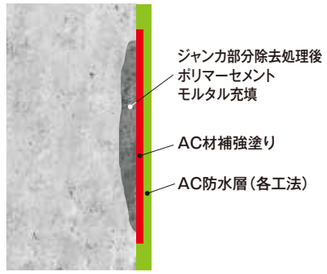
Pコン部



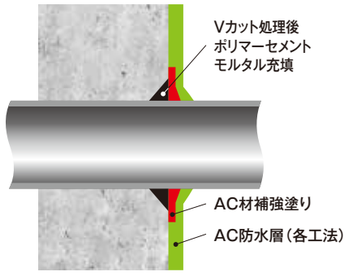
コールドジョイント部・クラック部



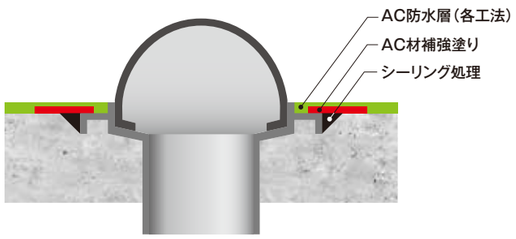
ジャンカ部



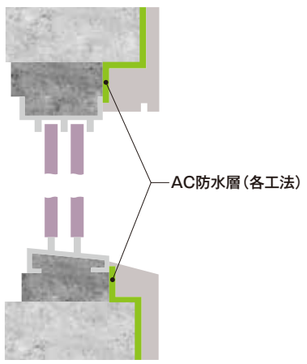
パイプ廻り



ドレン廻り



サッシュ部



ポリマーセメントモルタル充填に使用する材料は、AC材またはACG材を堅練りした材料でも可能

■ アクアシャッターAC製品一覧

ASプライマー
アクアシャッターAC専用プライマー

コンクリート下地への浸透性に優れたプライマーです。下地コンクリートに塗布し、防水層の膨れやピンホールを防止します。

外観 白色乳液
荷姿・容量 18kg／缶

AC原液
防水用原液(ACN, ACB, ACR工法用)

耐亀裂性、 耐疲労性に優れたアクリル樹脂エマルジョンです。 AC混和材と混練して防水材(AC材)として使用します。

外観 白色乳液
荷姿・容量 18kg／缶
固形分濃度 54%

AC混和材
防水用混和材(ACN, ACB, ACR工法用)

耐特殊セメント系混和材です。 AC原液と混練して防水材(AC材)として使用します。

外観 灰色粉体
荷姿・容量 18kg／袋

ACG原液
防水用原液(ACG工法用)

耐水性の高いアクリル樹脂エマルジョンです。ACG混和材と混練して防水材(ACG材)として使用します。

外観 白色乳液
荷姿・容量 18kg／缶
固形分濃度 54%

ACG混和材
防水用混和材(ACG工法用)

速硬性に優れた特殊セメント系混和材です。
ACG原液と混練して防水材(ACG材)として使用します。

外観 灰色粉体
荷姿・容量 22kg／袋

ASプロテクター
防水層保護材

アクアシャッターACG工法の保護層として用いる既調合モルタルです。

※混合比
ASプロテクター15kg：
ACG原液0.75kg：水2~3kg

外観 灰色粉体
荷姿・容量 15kg／袋

ASトップ
耐候塗料(骨材入り)

耐久性、耐候性に優れた水性アクリルゴム系の塗料です。屋上、バルコニー等で防水層の化粧、保護に用います。

荷姿・容量 20kg／缶
固形分濃度 70%
標準色 グレー、グリーン

ASコート
耐候塗料(骨材なし)

耐候性、防汚性に優れた水性ポリウレタン系の塗料です。 バルコニー、開放廊下等で防水層の化粧 ・ 保護に用います。

荷姿・容量 16kg／缶
固形分濃度 53.5%
標準色 グレー、グリーン

RA高反射コート
耐候塗料(高反射タイプ)

優れた日射反射率を有する耐候塗料です。
防水層の温度上昇を大幅に抑制します。
ASトップに変えて使用できます。

荷姿・容量 15kg／缶
固形分濃度 51.0%±3%
標準色 ライトグレー

ASメッシュ（ポリエステルクロス）
防水層補強用不織布

ポリエステル繊維からなるクロスです。 細目状のため含浸性に優れます。 クロス目タイプのため、下地の複雑な形状にフィットします。

荷姿・容量 幅: 1020mm
長さ: 50m

ASクロス（不織布）
防水層補強用不織布

ナイロン ・ ポリエステル繊維からなる不織布です。補強性が高く、下地亀裂追従性に優れます。

荷姿・容量 幅: 1050mm
長さ: 100m

アクアシャッターAC防食被覆工法／アクアシャッターAC防水・防食複合工法 製品一覧

ASガードGW

上水道関連施設用防食被覆材
GW、GW-A工法に適用

適　応	下塗、中塗材
タイプ	無溶剤形エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 10kg缶
1セットあたり施工面積	37.5㎡

ASガードGW上塗

上水道関連施設用防食被覆材
GW、GW-A工法に適用

適　応	上塗材
タイプ	無溶剤形エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 5kg缶
1セットあたり施工面積	62.5㎡

ASガードコート中塗

上水道関連施設用防食被覆材
GW-A工法に適用

適　応	中塗材
タイプ	溶剤形エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 4kg缶
1セットあたり施工面積	120㎡

ASガードコート中塗 希釈剤

上水道関連施設用防食被覆材
GW-A工法に適用

適　応	希釈剤
タイプ	溶剤
荷姿・容量	15kg缶
希釈量	10% ～ 30%

ASガードコート上塗

上水道関連施設用防食被覆材
GW-A工法に適用

適　応	上塗材
タイプ	溶剤形アクリルウレタン樹脂
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 4kg缶
1セットあたり施工面積	120㎡

ASガードコート上塗 希釈剤

上水道関連施設用防食被覆材
GW-A工法に適用

適　応	希釈剤
タイプ	溶剤
荷姿・容量	16kg缶
希釈量	0% ～ 10%

ASガードGF

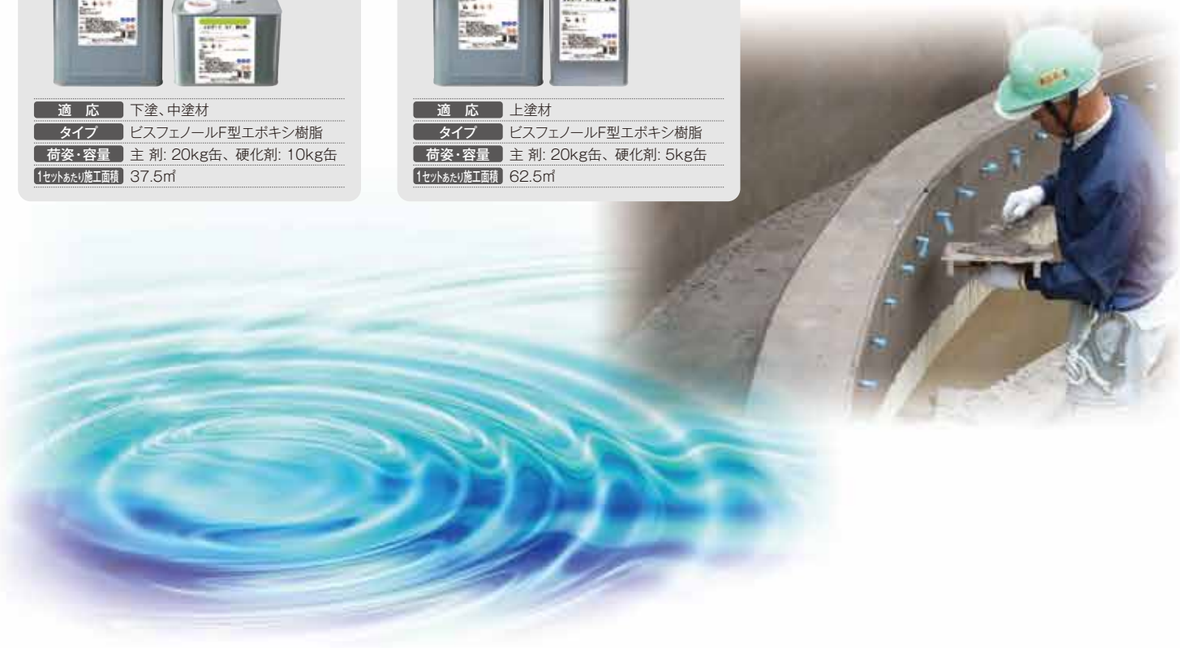
上水道関連施設用防食被覆材
GW-F工法に適用

適　応	下塗、中塗材
タイプ	ビスフェノールF型エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 10kg缶
1セットあたり施工面積	37.5㎡

ASガードGF上塗

上水道関連施設用防食被覆材
GW-F工法に適用

適　応	上塗材
タイプ	ビスフェノールF型エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 5kg缶
1セットあたり施工面積	62.5㎡



ASガードG1

下水道関連施設用防食被覆材
GC-1、GC-2工法に適用

適　応	素地調整Ⅱ種
タイプ	無溶剤形エポキシ樹脂パテ
荷姿・容量	主 剤: 20kg缶、硬化剤: 10kg缶
1セットあたり施工面積	37.5㎡

ASガードG2

下水道関連施設用防食被覆材
GC-1、GD-1工法に適用

適　応	防食被覆材
タイプ	無溶剤形エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 12kg缶、硬化剤: 3kg缶
1セットあたり施工面積	GA: 37.5㎡, GB: 25㎡, GC-1: 13.6㎡, GD-1: 8.3㎡

ガラスクロスEPF21A

下水道関連施設用防食被覆材
GC-1、GD-1工法に適用

適　応	補強層
タイプ	ガラスクロス
荷　姿	厚さ: 0.24mm、幅: 1100mm、長さ: 100m
1セットあたり施工面積	GC-1: 100㎡、GD-1: 50㎡

ASガードE

下水道関連施設用防食被覆材
GO-A、GO-B、GO-C、GO-D
工法に適用

適　応	素地調整Ⅰ種
タイプ	水系エポキシポリマーセメント
荷姿・容量	主 剤: 15kg袋、硬化剤: 5kgポリ容器
1セットあたり施工面積	20㎡

ASガードP

下水道関連施設用防食被覆材
GO-A、GO-B、GO-C、GO-D工法に適用

適　応	プライマー
タイプ	水系エポキシ樹脂プライマー
荷姿・容量	主 剤: 4kgポリ容器、 硬化剤: 4kgポリ容器(1セット梱包)
1セットあたり施工面積	53㎡

ASガードG3

下水道関連施設用防食被覆材
GO-C、GO-D工法に適用

適　応	防食被覆材(中塗り)
タイプ	無溶剤形エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 12kg缶、硬化剤: 3kg缶
1セットあたり施工面積	GO-C: 18.8㎡、GO-D: 9.4㎡

ASガードG3しごき用

下水道関連施設用防食被覆材
GO-A、GO-B、GO-C、GO-D工法
ACG-4P(アルカリ成分析出防止仕様)
に適用

適　応	防食被覆材(上塗り)
タイプ	無溶剤形エポキシ樹脂
荷姿・容量	主 剤: 12kg缶、硬化剤: 3kg缶
1セットあたり施工面積	GO-A、GO-C、GO-D: 37.5㎡ GO-B: 25㎡、ACG-4P: 50㎡

■ アクアシャッターAC施工・取扱い上の注意について

アクアシャッターAC防水工法 施工上の注意について

1. 施工条件

- 気温が5℃以下の場合は施工を避けてください。
- 施工中又は施工後、防水材の硬化前に降雨や降雪が予想される場合は施工を避けてください。
- 夏場で屋外施工の際は、必要な対策を講じてください。
- 水槽やピットなどの閉鎖部での作業時には、送風機による換気など必要な対策を講じてください。
- 結露の発生する場所では材料の硬化不良、分離、変色などが発生するため、地下などの湿度の高い場所での施工時は、送風機を使用するなど必要な対策を講じてください。
- 各製品の安全データシート（SDS）に記載の注意事項に留意してください。

2. 下地処理

- 平場のコンクリート表面は金ゴテ仕上げとします。
- 立上りのコンクリートは打放し仕上げとします。
- コンクリート表面に撥水処理がされている場合は、付着力低下の要因となりますので除去してください。
- 防水層の接着不良の原因となりますので、必ず下地の清掃を実施しレイタンスなどの付着物は完全に除去してください。
- 打ち継ぎ、木ごコン、ドレン、パイプ廻り、タラップの足元、コーナー等は予め補強処理をしてください。
- 入り隅は通りよく直角とし、出隅は通りよく面取りをしてください。
- 施工面の浮き水は施工前に除去してください。
- 防水施工する面には必ずプライマーを塗布してください。下地の吸水が激しい場合は2回塗布してください。
- 下地のコンクリート等の表面に劣化が見られる場合には、必要な処対策を講じてください。
- 鉄部等への施工は、防錆処理を確認のうえ塗布してください。（表面に目荒し処理実施をお勧めします）

3. 防水材の施工

- 材料の練り混ぜは混合比を規定通りに守り、原液を攪拌しながら混和材を少しずつ添加し、ダマがなく均一になるまで攪拌してください。
- 材料の調合はセット単位とし、他の材料の混入は絶対に避けてください。
- 練り混ぜた材料は、できるだけ早く使い切るようにしてください。
- 練り混ぜ量は可使時間内に使用できるように調整し、硬化が始まった材料に水を加えて使用しないでください。
- 塗布量は、カタログ等の資料に従い規定量を使用してください。規定量を塗布していない場合、フクレ、剥れの発生要因になります。
- 必ず2回塗り以上実施し、1回塗りでの厚塗りは硬化不良等の原因となりますので塗り回数を増やして対応してください。ピンホールがある場合は、再度塗布してください。
- 各工程の塗布間隔は、規定の乾燥時間（カタログ参照）を保持し、塗膜の乾燥を十分に確認してから次の工程に進んでください。（乾燥時間は現場の状況により異なる場合があります）
- セメント系材料ですのでエフロレッセンス（白華現象）が発生しますが、品質には支障ありません。

4. 材料の保管

- 原液は開封後きちんと封をして、なるべく早めに使い切ってください。
- 5～30℃の屋内に保管してください。
- 混和材は水のかからない場所及び低温で保管してください。
- 4ケ月以上貯蔵したものは、使用前に必ず変質がないか確認してください。

アクアシャッターAC防水工法 取扱い上の注意について

- 目や皮膚などへの付着を防止するため、保護具（保護メガネ、保護手袋、保護面など）を着用してください。
- 取扱い後は、洗顔、手洗い、うがいを十分に行ってください。
- 指定の材料以外の材料と混合しないでください。
- 目に入った場合は、清潔な水で15分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、汚れた衣類や靴を脱ぎ、付着した部分を水又は微温湯を流しながら洗浄してください。
- 飲み込んだ場合は、水で口を洗うと同時に医容物を吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。
- 各製品の安全データシート（SDS）に記載の注意事項に留意してください。

アクアシャッターAC防食被覆工法/防水・防食複合工法 施工上の注意について

1. 施工条件

- 気温が5℃以下の場合は施工を避けてください。
- 施工中又は施工後、防水材の硬化前に降雨や降雪が予想される場合は施工を避けてください。
- 夏場で屋外施工の際は、必要な対策を講じてください。
- 水槽やピットなどの閉鎖部での作業時には、送風機による換気など必要な対策を講じてください。
- 地下などの湿度の高い場所での施工時は、送風機を使用するなど必要な対策を講じてください。
- アレルギー体質の方は、使用に注意する又は使用しないでください。
- 各製品の安全データシート（SDS）に記載の注意事項に留意してください。
- 水槽内に温水を貯留する場合の温度は40℃までとなります。

2. 下地処理

- 平場のコンクリート表面は金ゴテ仕上げとします。
- 立上りのコンクリートは打放し仕上げとします。
- コンクリート表面に撥水処理がされている場合は、付着低下の要因となりますので除去してください。
- 防水層の接着不良の原因となりますので、必ず下地の清掃を実施しレイタンスなどの付着物は完全に撤去してください。
- 入り隅は通りよく直角とし、出隅は通りよく面取りをしてください。
- 施工面の下地は、十分に乾燥させてから施工してください。
- 下地のコンクリート等の表面に劣化が見られる場合には、必要な処対策を講じてください。
- 鉄部等への施工は、防錆処理を確認のうえ塗布してください。（表面に目荒し処理実施をお勧めします）

3. 防食材の施工

- 材料の練り混ぜは丸容器を使用し、所定の混合比を規定通りに守り、均一になるまで攪拌してください。
- 材料の調合はセット単位とし、他の材料の混入は絶対に避けてください。
- 練り混ぜた材料は、できるだけ早く使い切るようにしてください。
- 練り混ぜ量は可使時間に使用できるように調整してください。
- 水を加えての使用は不可です。
- 塗布量は、カタログ等の資料に従い規定量を使用してください。
- 必ず2回塗り以上実施し、厚塗りは硬化不良等の原因となりますので塗り回数を増やして対応してください。ピンホールがある場合は、再度塗布してください。
- 各工程の塗布間隔は、規定の乾燥時間（カタログ参照）を保持し、塗膜の乾燥を十分に確認してから次の工程に進んでください。（乾燥時間は現場の状況により異なる場合があります）
- 材料の硬化養生期間中に湧き水や結露などが発生すると、材料の硬化不良や白化現象が生じますので継続した空調設備の設置を検討してください。

4. 材料の保管

- 粉体の材料は水のかからない場所及び低温で保管してください。
- 5～30℃の屋内に保管してください。
- 4ケ月以上貯蔵したものは、使用前に必ず変質がないか確認してください。
- 危険物に該当する製品は、法令を遵守し所定の保管、貯蔵、運搬を実施してください。

アクアシャッターAC防食被覆工法/防水・防食複合工法 取扱い上の注意について

- 目や皮膚などへの付着を防止するため、保護具（保護メガネ、保護手袋、保護面など）を着用してください。
- 取扱い後は、洗顔、手洗い、うがいを十分に行ってください。
- 指定の材料以外の材料と混合しないでください。
- 目に入った場合は、直ちに眼科医の手当てを受けてください。
- 直接皮膚に触れると体質によっては炎症を起こす場合がありますので、保護クリーム等を塗り、直接触れないようにしてください。
- 飲み込んだ場合は、直ちに医師の手当てを受けてください。
- 各製品の安全データシート（SDS）に記載の注意事項に留意してください。

その他の製品

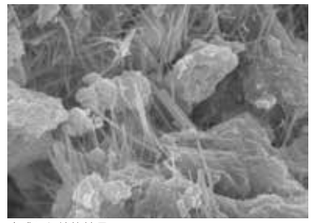
ケイ酸質系塗布防水材

シリアテクトP 樹脂粉末混入型
シリアテクトI

JASS 8（日本建築学会建築工事仕様書・同解説・防水工事）M-301規格適合品（C-SUI、C-SUP）
シリアテクトP／シリアテクトIは、コンクリート表面に塗布することで、シリアテクト中のケイ酸イオンが、コンクリートの空隙中にあるカルシウムイオンと化学的に反応してケイ酸カルシウム水和物「針状結晶」を生成し、コンクリートを緻密に変化させ優れた防水性能を発揮します。

特長

地下構造物の背面水圧に対して有効な防水材
コンクリート躯体が湿潤下地でも施工が可能
水道水と攪拌するだけのプレミックス製品


生成した針状結晶

標準仕様

工法名	使用材料	荷姿	標準仕様	1袋当たりの施工面積	JASS8仕様
シリアテクトP工法	シリアテクトP	25kg／袋	①水湿し ②シリアテクトP 0.7kg/㎡ ③シリアテクトP 0.8kg/㎡	16.6㎡	C－SUP
シリアテクトI工法	シリアテクトI	25kg／袋	①水湿し ②シリアテクトI 0.6kg/㎡ ③シリアテクトI 0.8kg/㎡	17.8㎡	C－SUI

適用部位

	地下構造物		水槽	ピット	
防水層の位置	外壁	床			※1：壁、床、天井を含む ※2：壁、床を含む ※3：壁 その他、特記による
背面水圧側	○	○	—	○※2	
水圧側	○	—	○※1	○※3	

背面水圧側：地下水または水と接しない側、建物の内側またはピットの内側を指す。
水　圧　側：地下水または水と接する側、建物の外側または水槽の内側を指す。

施工箇所

地下外壁（外部側、内部側）、地下室、水槽、ピット
注1. 防水性が重要な部位には、アクアシャッター（AC、EVA）防水工法を推奨します。
注2. 腐食性ガスが発生する部位への使用は避けてください。アクアシャッター防食被覆工法を推奨します。

品質性能

試験項目	結果	規格	試験方法
針状または繊維状結晶量	合格	無塗布試験体の2倍以上	JASS 8　M-301 ケイ酸質系塗布材の品質および試験方法
透水係数	合格	無塗布試験体の1/3倍以下	